

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北海道上ノ国高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒049-0695

北海道檜山郡上ノ国町字大留 351 番地

E-mail kaminokuni-z0@hokkaido-c.ed.jp

Website http://www.kaminokuni.hokkaido-c.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 52 名 女子 48 名 合計 100 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳 ~ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は「GLOBAL STATION 上高」を国際理解教育の活動の柱として、ESDの「地球規模の視野で考え、地域視点で行動する」力の育成を目標とした。

具体的には、KEEP (Kamiko English Education Project) と英語科が中心となり、

①国際理解に係わる活動、②異文化理解に係わる教育、③国際貢献に係わる学習、

④海外研修に係わる学習を行った。

① 国際理解に係わる活動 (英語科)

ア) 5月に JNNE 主催の「世界一大きな授業」に全校生徒で参加。また、開発教育協会の「ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら」を参考にした模擬授業を、中学生を対象にした学校説明会の中で実施した。

イ) 世界最貧の架空の国を舞台とし、文字を読めない子ども達を主人公に英語科教員と ALT と協力して物語を作り英訳した。1 年生コミュニケーション英語 I の応用クラスの生徒が中学校 2 年生対象に英語劇出前授業を実施した。

ウ) 北海道教育委員会指定事業「U-18 未来フォーラム事業」の取組の一環で、タイ王国 Yupparaj Wittayalai School との Skype 交流を実施した。

② 異文化理解に係わる教育（英語科・家庭科）

ア）教科横断調理実習

2年生コミュニケーション英語Ⅱと家庭総合のコラボレーションにより、英語で書かれたレシピを用いながら調理実習を実施した。

イ）A L Tの異文化プレゼンテーション

アメリカ出身A L Tの指導のもの、ハロウィン授業及びクリスマス授業を実施した。ハロウィン授業では、カボチャを使ったランタン作りに取り組んだ。クリスマス授業では、英語でのクリスマスカードを作成した。

③ 国際貢献に係わる学習（課外活動・英語科授業）

ア）UNIQLO 社との協働「届けよう、服のチカラ」事業への参加

不要な子ども服を、ユニクロ社をとおして難民キャンプの子どもたちに寄附するプロジェクトで、今年度も参加が認められた。7月に同社員による全校生徒への出前授業が実施された。9月から12月にかけて本校KEEPの生徒が町内の小中学校を訪問し告知活動、事業所へのポスター掲示、回収活動を行った。

イ）世界寺子屋活動「書きそんじハガキ回収活動」

町内小中学校、町内8事業所の協力により、書きそんじハガキを回収中である。3月上旬を締切とし、日本ユネスコ協会に送付する。

④ 海外研修に係わる学習（地域の経済的支援による毎年5名の派遣）

上ノ国町からの補助金による本校の海外研修は今年度で20回目である。29年度はKEEPER2名を含む5名が参加した。研修後に、小中学生を招いて研修報告会を12月に実施した。英語でのスピーチや個人テーマによる研修発表を実施した。



「世界一大きな授業」の説明



英語でのクリスマスカード作成



「届けよう、服のチカラ」プロジェクト



海外研修での学校訪問

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ア) 「世界一大きな授業」で参照 http://www.jnne.org/gce/
イ) 「届けよう、服のチカラ」プロジェクト活動で参照 https://www.uniqlo.com/jp/sustainability/school/
ウ) 「書きそんじハガキ回収活動」で参照 http://www.unesco.or.jp/support/donate/near/

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、アクティブラーニングやESDを核とした課題解決型の学習過程を重視した教育課程を編成している。「世界一大きな授業」や「もしも世界が100人の村だったら」等のワークショップでは、グループワークを積極的に導入し、生徒が主体的に考え、生徒自身の意見や考えを表明できる授業実践を行っている。

今後は、科目横断的な指導計画や取組の推進と学校全体としてのESD推進体制の見直しと改善が課題と考える。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校では、英語科とKEEP(=Kamiko English Education Project: 上高英語力向上プロジェクト)を中心にして、ESD教育を推進している。KEEPには英語科教諭を顧問として配置し、所属生徒の指導や支援を行っている。校内体制として、ESD委員会を設置し、各種外部との連携や海外研修に係る業務を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年度末に実施している学校評価において、生徒に対して「世界の諸問題に関心を持つようになったか」の設問を課し、4点満点で学年全体で2.7の評価となっている。この評価から明らかになる課題としては、各種取組においてそのフィードバックが不十分な点であることと、一部の生徒の変容は認められるが、まだ学校全体のものになっていないところが考えられる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校ホームページ、学校通信、新聞報道や上ノ国町の広報誌をとおして、さまざまな取組の成果を外部に向けて発信している。その結果、「届けよう、服のチカラ」プロジェクトや「書きそんじハガキ回収活動」において、上ノ国町内だけではなく、北海道内からも服やハガキの寄附が多数寄せられた。ホームページの更新を頻繁に行っているため、今後も継続してこまめな情報発信に努める。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

「届けよう、服のチカラプロジェクト」においては、株式会社ユニクロとのタイアップを行い活動を推進することができた。海外研修については、上ノ国町教育委員会との連携をとおして、円滑に海外研修を実施することができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度については、国内外のユネスコスクールとの交流やネットワーク形成について実施することができなかった。

今後の方策として、次年度より北海道教育委員会より「地域連携特例校」の指定を受け、遠隔授業システム機器が導入されるのに伴い、北海道内のユネスコスクールとの交流を軸に交流の幅を広げる予定である。

- ⑧ ユネスコスクールによる活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動を取り入れることで、生徒が国内外に向けて視野を広く持つことができ、様々な形で国際貢献することができていると評価している。これは、本校教育の重点目標の一つである「地域に根ざす人としての自覚を持ち、社会や世界の状況に幅広い視野を持って向き合うボランティア精神を涵養する。」の考え方に合致するものである。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

平成 30 年度の活動計画については、次のとおりである。

- ア) 国際理解に関わる活動
JNNE 主催の「世界一大きな授業」、開発教育協会の「ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら」
- イ) 異文化理解に関わる教育
教科横断的学習、ALT による異文化理解促進授業
- ウ) 国際貢献に関わる学習
世界寺子屋活動「書きそんじハガキ回収活動」
- エ) 海外研修に関わる学習
上ノ国町の支援による海外研修派遣事業（ニュージーランド）